

クレーム対応は窓口を設定して対応する。

ボランティアはすでにやりたいという人がいる。

お盆やコールドンウイークは 365 日開けるかどうかは検討する必要がある。あるいはボランティアにやってもらう。営業促進は 1 年交代の役員では無理がある。地元に通じた人に数年かかって軌道に乗せてもらう。

収入不足のカバーは難しい問題だが、ランニングコスト 30 万円は 12% の利用率はどうか、修繕積立金をカバーするには 800 回の利用が必要になる。当初は難しいが 5 年間くらいの時間をかけてかなりの努力が必要である。ランニングコストと修繕積立金ぐらいいは見通しがつくのではないかと思う。減価償却費の 50 万円は難しいと思うが、大変残念であるが、30 年から 50 年後に町田市に土地を返還することも選択肢の一つになる。

つくし野センターとの並立はあると思うが、センターは公共施設の制約がある。飲食ができない。申し込みが定期的な利用というのはできない。会館ではできる。

・委員

つくし野は人口 6600 人で少ない、つくし野センターがあるので、自治会館を利用する人が少数になる可能性が非常に高い。センターの利用率や利用回数を分析したところ会館の年間利用回数は 260 回で光熱水費もまかなえないような赤字になる可能性がある。

修繕費の積み立てには 800 回の利用が必要で、つくし野センターの第 1 会議室と第 2 会議室を利用している回数の 6 割が自治会館に移らなければ実現できない。

建替経費の積み立てには年間 1500 回の利用が必要で、これはつくし野センターの第 1 第 2 会議室の利用が年間 1300 回ですから、この利用者が全部移ってもたらないので、建て替え経費の積み立ては不可能と言わざるを得ない。

玉川学園地区は人口が 16000 人をオーバー(つくし野の 2.5 倍)しているので、駅前のコミュニティセンターとさくらんぼホールが並立していても黒字になっている。

つくし野と環境が似ている小川会館は赤字で自治会が分担金を出している。

自治会館についてのすべての責任は自治会にあるので、赤字の処理は自治会に責任があり皆さんに負担が回ってくることをよく考える必要がある。デメリットも承知して、賛成反対の判断をすることが大事ではないか。

・住民(2 丁目)

他の会館はほかのコミュニティセンターがありながら並立しているのか。つくし野は並立しているので不利な事業展開にならざるを得ない。負担を強いられるのは必至ということになりかねないと思う。センターがあるのだから乗り合いはできないのかな。

建設の費用はどうやって割り出したのか。コンペに掛けたのか。切り詰める余地はないのか。ふれあい基金はこれしか出せませんということなのか。

・委員長回答

センターと併設は玉川学園はセンターとさくらんぼホールが併設している。

小川や高ヶ坂、成瀬は距離が離れている。

つくし野センターと乗り合いは、センターの利用かってをよくする要望の取り組みは必要だと思う。公共の施設と地域の施設の在り方は同じではない。あの地域で杉山会館と一緒にふれあい祭りも考えられる。

建設費用のはじき方は 3 つの業者に相談した。建築家機構にも相談した。市に認められてから設計して合見積もりを取るの、現在は概算である。

・住民(4 丁目)

ふれあい基金の使用目的とはこれとこれがあってこれがベストなのか。私は東北とか長野とかああゆうところに使いたい。小川とかここも年取ってきて 10 年後を考えるとかなり高齢化が進んでいく。一人で残されてマンションに移りたい。人口が減る流れの中にある。そこらへ